

# 前橋育英新聞

インハイ NEWS

7月29日(月曜日)

発行所 前橋育英保護者会  
発行責任 広報部



前橋育英新聞からのお知らせ

悲願のインターハイ出場を決めた前橋育英ソフトボール部でしたが、本大会では、残念ながら初戦敗退という結果に終わってしまいました。しかしながら、足踏はしっかりと残ってきた戦いだっただけでなく、この続きは後述の通りです。また一からのスタートになりますが、「楽しみながら勝負にたむかる」というスタイルを掲げ、再び全国の舞台に立てるよう選手たちに頑張ってもらいましょう。引き続き応援を宜しくお願い申し上げます。



## 常勝校に善戦も力及ばず

女子ソフトボール

### インターハイ初戦 前橋育英

前橋育英は7月28日、インターハイ初戦で春の選抜大会準優勝の北九州市立高等学校(福岡県)と対戦した。序盤から投手戦が繰り返され、一瞬も目が離せない状況が続いた。左腕が気迫の好投を見せると、野手も堅守で盛り立てる。4回を終え0対0、前橋育英は5回に先取点のチャンスをつくるも得点ならず、その裏に北九州市立に2点を取られる。

今年に入ってから群馬県大会では、追う立場から反撃に出たケースが度々あり、周囲もそれに折りを込めた。しかし、北九州市立の右腕の安定した配球に打線は沈黙。連打を生み出すことができずにいた。その間、前橋育英の左腕は粘りの投球をみせ、味方打線の

援護を待った。最終回に入り、代打攻勢で逆転劇を狙った。「ソフトボールの神様がいるのなら、前橋育英に勝利の女神を」と手を合わせるスタンドの応援団たち。「絶対、絶対、絶対勝つ、グラウンド・スタンド一丸となり」。周囲の声は届いていた。その声は群馬にも確実に伝わった。「泣いても笑っても、これが仲間と戦う最後の夏なんだ」。……。

ゲームセット。前橋育英は0対2で惜しくも初戦敗退となった。最後に整列、現メンバーとしては最後の瞬間だ。選手たちは泣いていた。「終わった」……。勝負の厳しさを改めて痛感した瞬間であった。

勝負の世界は残酷である。頂点を描くことは誰にでもできるが、上には上がいる。一枚も二枚も強いチームがチャンピオンフラッグを手にする。

ただ、この大舞台に立つことができたのは、選手たち全員の努力の結晶だ。創部以来初のインターハイ出場という歴史を塗り替えたことは、とてつもなく大きな意味を持つ。3年生は、一部団体はあるが、これで一区切りとなる。思い返せば2年4カ月前、前橋

育英の門をくぐった。これまでの思い出のシーンが一気にフラッシュバック。これが青春のページというものののだろうか。気が付けば、もう8月になる。3年生はこれから、女子高生として、普通の生活に戻る……。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
前橋育英 (群馬県)	0	0	0	0	0	0	0				0
北九州市立 (福岡県)	0	0	0	0	2	0					2



試合直前に全員の士気を高める

### 「やれば何でもできる」

ソフトボールを通じて多くの出会いがありました。インターハイでは応援してくださった皆さんに、何とか1勝をプレゼントしたかったです。ここまでソフトボールをさせて頂きありがとうございます。「前橋育英で良かった」。その一言に尽きますね。「まずは群馬県の頂点になること」。その夢を実現できたことが大きな自信になりました。全員で掴んだ優勝旗。それとインターハイ出場。これが今年一番のサプライズプレゼントでしょうか。サプライズって言ったら怒られるかな？ 努力の証だね。



しばらくは、ゆっくり休んで女子高生を満喫します。でも、ソフトボールやりたくなるんだろうな。

## 宮崎で魅せた上州の底力 全国経験し次に期待

### 一丸で戦う事の素晴らしさを学ぶ



大会初戦に挑む選手たち

